

できる経済人ネットワーク186回例会で 北農中央会会長が語った 全保障に貢献する北海道農業

札幌なにかが 樽井功 食料安



▲樽井 功氏

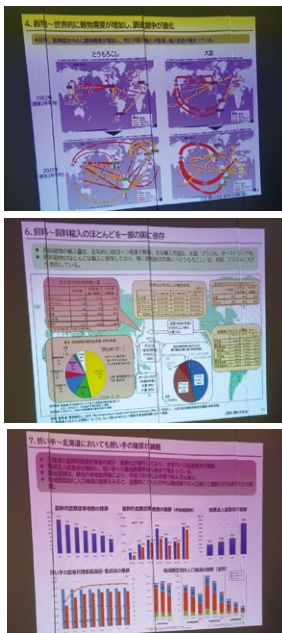
越智文雄あかりみらい社長が主宰する「札幌なにかが」の186回例会が8月20日、カナモトホールで行われ、北海道農業協同組合中央会会長の樽井功氏が「食料安全保障に果たす北海道農業の役割」をテーマに講演した。

越智文雄あかりみらい社長が主宰する「札幌なにかが」の186回例会が8月20日、カナモトホールで行われ、北海道農業協同組合中央会会長の樽井功氏が「食料安全保障に果たす北海道農業の役割」をテーマに講演した。

このネットワークは「北海道を愛する熱意ある有志の研究会」として2006年に発足した。以来18年間、月例会を続け、これまで参加した会員、講師は延べ5000人を超える。政界や諸官庁、経済、金融、教育メディア、学生まで、文

境の中で栽培技術を高め、「東川米ブランド」を確立。道産米として初めて地域団体商標に登録され、「ゆめぴりかコンテスト最高金賞」をはじめ多数の受賞歴を持つ。

「北海道を愛する熱意ある有志の研究会」として2006年に発足した。以来18年間、月例会を続け、これまで参加した会員、講師は延べ5000人を超える。政界や諸官庁、経済、金融、教育メディア、学生まで、文



▲穀物需要が世界的に高まっていることなど国際的な課題を指摘した

今年6月、「ひがしかわライスターミナル」の第一期工事となる機能性

「東川米ブランド」を確立。道産米として初めて地域団体商標に登録され、「ゆめぴりかコンテスト最高金賞」をはじめ多数の受賞歴を持つ。

現在、第二期工事の米穀乾燥調整貯蔵施設を建設中。世界初となる輸出特化型の製造機能「高度衛生

良質米製法」の導入がこの工場の大きな特徴だ。他県と比較すると10歳若い平均年齢

グループを代表して発信する役割を果たすJ A北海道中央会会長に就いた。東川町では、水稲23畝を中心し営農。後継者の子息らが中心となって生産活動をしている。

第一期工事となる機能性

良質米製法」の導入がこの工場の大きな特徴だ。他県と比較すると10歳若い平均年齢



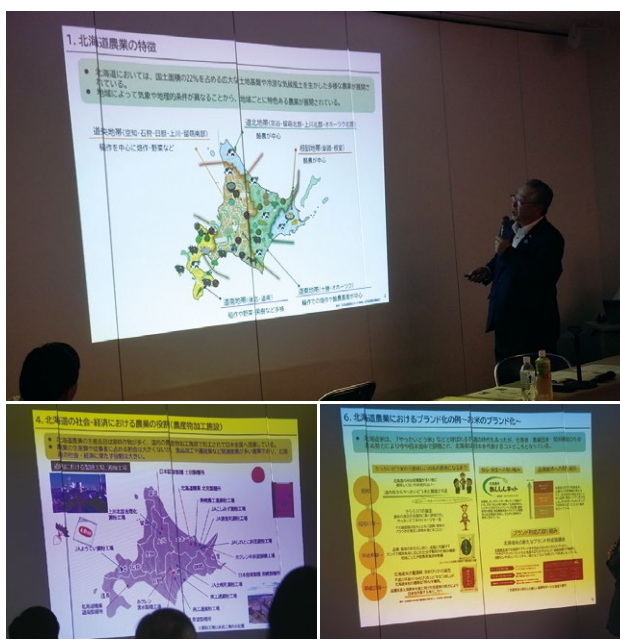
▲樽井氏はお米を真空パックにした名刺を活用しており、この名刺は樽井氏の発案により道産米を全国にPRする北海道米アンバサダーも使っている

現在、第二期工事の米穀乾燥調整貯蔵施設を建設中。世界初となる輸出特化型の製造機能「高度衛生

農業の現状を説明。産出額は1兆3000億円程度で全国の14%を占めている。日本の食料自給率（カロリーベース）は38%と低迷する中において、北海道は223%で全国1位だ。農業従事者は65歳以上の割合が高く、高齢化の進展は否めない。しかし、他県と比較すると平均年齢は10歳ほど若く、将来

字通り多彩なネットワークを持つのが特徴だ。最近の月例会では、4月に北海道開発局長の柿崎恒美氏（6月に国土交通省北海道局長に就任）が講演し、第9期北海道総合開発計画の要旨などを語った。

師に迎えることができるのも、活動の実績と信頼があるからこそだ。樽井氏は1959年上川管内東川町生まれ。拓殖大学北海道短期大学を卒業後、家業の農業に従事し、2005年に東川町農協理事に就任。専務理事を経て14年に組合長となり、昨年、道内J Aグループの意志を結集し、



▲北海道農業の特徴を、地図を用いてわかりやすく説明した



▲北海道米や牛乳・乳製品、砂糖などの消費拡大の取り組みを紹介した

今回の例会は、身近な「食」がテーマとあって、参加者の関心は高かった。料理研究家の星澤幸子氏や大越農子道議らの質

問に加え、参加者から耕作放棄地の活用や新規就農者への支援、農業における女性の活躍推進のほか、「新米の価格はどのくらい？」という現実的な質問も寄せられた。



▲司会・進行は越智文雄氏が務めた